日本王代一覧

リ 5
5155
1

り5
5155
1-7

林鵞峯先生著

日本王代一覽 全七

浪華書肆 新榮堂藏版

嶋田藏書之印

書王代一覽首

先鵞峯公以淹貫之識閎贍之學而特留心國史古今紀載朝野編錄罔不廣蒐博收嘗撰本朝通鑑又撰提要合數百卷可謂鉅典矣至王代一覽則一時應索所成僅〻小品固非可並論也然能芟除繁亂採撮要綱而歷朝興衰制度沿革與夫成敗治忽之故忠邪淑慝之別亦可以領其概矣則讀通鑑者由斯編而入譬如升高之有梯也朱子曰小兒讀六經了令讀稽古錄亦好斯編則我家稽古之錄洵亦不可廢

嶋田藏

門 95
號 5155
壹

矣抑世有讀一部十七史自詑爲吾能通古今
談典故而問以本朝事蹟則茫然無識何其詳
于外而畧于內貴于遠而賤于近耶髦士其知
所先後哉遂倂書之
享和二年清和月中浣八日述齋林衡

日本王代一覽卷之一目錄

一 一葉 神武天皇 在位七十六年
二 二葉 綏靖天皇 在位三十三年
三 二葉 安寧天皇 在位三十八年
四 二葉 懿德天皇 在位三十四年
五 三葉 孝照天皇 在位八十三年
六 三葉 孝安天皇 在位百二年
七 三葉 孝靈天皇 在位七十六年
八 四葉 孝元天皇 在位五十七年
九 四葉 開化天皇 在位六十年

新潟縣立圖書館

十 四葉 崇神天皇 在位六十八年
一十 五葉 垂仁天皇 在位九十九年
二十 六葉 景行天皇 在位六十年
三十 九葉 成務天皇 在位六十年
四十 九葉 仲哀天皇 在位九年
五十 十葉 神功皇后 在位六十九年
六十 十三葉 應神天皇 在位四十一年
七十 十四葉 仁德天皇 在位八十七年
八十 十六葉 履中天皇 在位六年
九十 十七葉 反正天皇 在位六年

十 十八葉 允恭天皇 在位四十二年
一廿 十九葉 安康天皇 在位三年
二廿 廿葉 雄略天皇 在位廿三年
三廿 廿葉 清寧天皇 在位五年
四廿 廿葉 顯宗天皇 在位三年
五廿 廿一葉 仁賢天皇 在位十一年
六廿 廿二葉 武烈天皇 在位八年
七廿 廿三葉 繼體天皇 在位廿五年或廿八年
八廿 廿四葉 安閑天皇 在位二年
九廿 廿四葉 宣化天皇 在位四年

(十三)欽明天皇　在位三十二年
(一卅)敏達天皇　在位十四年
(二卅)用明天皇　在位二年
(三卅)崇峻天皇　在位五年
(四卅)推古天皇　在位三十六年
(五卅)舒明天皇　在位十三年
(六卅)皇極天皇　在位二年
(七卅)孝德天皇　在位十年大化五年号白雉五
(八卅)齊明天皇　在位七年

人王一代

神武天皇　天照大神ヨリ五代。鸕鷀草葺不合尊第四ノ御子ナリ。御母ヲ玉依姫トイフ。龍神ノ嬢ナリ。神武御年十五ニテ。太子ニタチタマフ。御年四十五ノ時。日向國ヨリ船軍ヲヽコシ。筑紫ヲ平ゲ。安藝國ヘ出タヽヒ。其ヨリ吉備國ヘ到リタマヒテ。兵船ヲトヽノヘ。兵粮ヲアツメ。三年逗留シタマフ。吉備國ハ今ノ備前備中備後ナリ　其ヨリ難波河内ヲ歷テ。大和國孔舍衛坂ト云所ニテ。長髓彦ト戰ヒ。大敵ト合戰シ。又紀伊國名草熊野ニテ。度々合戰ス海上ニテ風ニアヒテ。官軍利ヲ失テ。神武ノ御兄三人。所々ニテウセタマヒヌサレドモ神武ノ

兵威次第ニ強ク盛ニシテ長髓彦ヲ始トシテ菟田
兄猾八十梟師兄磯城ナド云ル數多ノ大敵悉ク滅
シカハ甲寅ノ年二日向國ヲ出タヽヒシヨリ十年ヲ歴
テ辛酉ノ年大和國畝傍山ヲ切開テ始テ内裏ヲ作
リ帝位ニツキタヽフ是ヲ橿原宮ト申ス即是神武
天皇ノ元年ナリ宇摩志麻治命ト道臣命ト兩人
武功勝レタルニヨリテ軍兵ヲ召具シ内裏ヲ警固ス
道臣命ノ司ル軍兵ヲハ來目部トイフ宇摩志麻治
命ノ司ドル所ヲハ物部トイフ今ニ至ルマテ武士ヲモ
ノヽフトイフコヽハ是ヨリ始レリ天種子命天富命左
右ニ侍リテ政ヲ執行フ天種子命ハ天兒屋根命春日
大明神ノ末ニテ藤原氏ノ先祖也又宇摩志麻治命ハ
天帝日旁命トヲ以テ中食國政大夫トスル此官ハ後
世ノ大臣ノ儀ナリ天皇アルトキ高キ丘ニ登テ此
國狀蜻蛉ニ似タルヲ見テ始テ秋津洲ト名ヅケ
ラル蜻蛉ハカゲロフノ云虫也天皇在位七十六
年ニシテ崩御ヽシヽス御年百二十七　此御代ノ
元年異朝ニテハ周ノ惠王ノ十七年ニ當レリ

二代

綏靖天皇　神武ノ太子ナリ御母ヲ踏鞴五十鈴媛ト
イフ大巳貴神ノ孫事代主神ノ娘也綏靖ノ別腹
ノ兄ヲ手研耳命トイフ年既ニタケテ神武ノ時
ヨリ政ニ預リシカハ世ヲ奪ノ志アリコレニヨリテ神
武崩御以後二年ノ間綏靖位ニ即コトアタハス其

同腹ノ兄神八井耳命ト談合シテ手研耳命ヲ射殺
シテ綏靖帝位シタマフ葛城高丘宮ニシマス湯
彦友命トイフ人政ヲ執行ヘリ在位三十三年ニシ
テ崩ス御年八十四

三代

安寧天皇　綏靖ノ太子ナリ御母ハ五十鈴依媛トイ
フ是モ事代主神ノ娘ナリ　此時都ヲ大和ノ片塩
ニ遷シ浮孔宮ニシマス出雲色命トイフ人政ヲ執
行フ　在位三十八年崩ス御年五十七

四代

懿德天皇　安寧ノ太子ナリ御母ヲ渟名底仲媛トイ
フ鴨王トイヘル人ノ娘ナリ　此代ニ都ヲ大和ノ軽
地ニ遷シテ曲峽宮ニシマス出雲色命政ヲ執行フ
在位二十四年崩ス御年七十七　此御代元年異
朝ニテ周ノ敬王十年ニアタレリ孔子此時ニ出
タリ

五代

孝照天皇　懿德ノ太子ナリ御母ハ天豐津媛トイフ
安寧ノ孫息石耳命ノ娘ナリ　此時都ヲ大和ノ掖
上ニ遷シ池心宮ニシマス出石心命瀛津世襲命
政ヲ行フ在位八十三年ニシテ崩ス年百十四

六代

孝安天皇　孝照ノ太子ナリ母ハ世襲足媛トイフ
瀛津世襲命カ妹ナリ　此時ニ大和ノ室地秋津

嶋宮ト云トコロニマシマス在位百二年ニシテ崩ス歳
百三十七

七代

孝靈天皇　孝安ノ太子ナリ母ハ押媛ト云懿德ノ孫
天足彦國押人ノ娘ナリ　大和ノ黒田廬戸宮ト云
所ニマシマス
此帝ノ五年ニ近江國ノ地サケテ湖タヽヘ同時ニ駿
河國富士山初テアラハル　ト云傳ヘタリ在位七十
六年ニシテ崩ス歳百二十八　此代異朝ニテハ秦
ノ始皇ノ時ニアタリテ徐福ト云モノ蓬萊山不死
ノ藥ヲモトメントテ日本ヘワタリ富士山ニ留ルト
云傳タリ又紀州熊野ニモ徐福カ祠アリ

八代

孝元天皇　孝靈ノ太子ナリ母ハ細媛ト云磯城縣主
大目ガ娘ナリ　大和ノ輕地境原宮ト云所ニマシマ
ス欝色雄命トイフ人政ヲ行フ
シテ崩ス歳百十七　在位五十七年ニ

九代

開化天皇　孝元ノ太子ナリ母ハ欝色謎命ト云欝色
雄命カ妹ナリ　大和ノ春日卒河宮ト云トコロニマ
シマス孝元ニミヤツカヘセル伊香色謎命ト云ル女ヲ
后トス后ノ父大綜麻杵命政ヲ行フ又伊香色雄
命モ政ヲ執タリ　在位六十年ニシテ崩ス歳百十五

十代

崇神天皇　開化ノ太子ナリ。母ハ伊香色謎命ト云。都ヲ大和ノ磯城ニ遷レテ。瑞籬宮ニ住タマヒ。群臣ト天下ヲ治ルコトヲ談合セラル。即位ノ初。疫病ハヤリケレハ。天皇其御娘豊鍬入姫ヲシテ。天照大神ヲ。大和ノ笠縫邑ニ祭奉ル。又淳名城入娘ヲシテ。大國魂神ヲ祭シム。然レトモ此姫神ノ心ニヤカナハサリケン。髪落体痩テ祭コトアタハス。其後天皇潔齋シ。大物主神等。八百万神ヲ祭リ。シカハ疫病ヤミテ國家ユタカナリ。大國魂モ大物主モ皆大巳貴神ノ事ナリ。三輪大明神是ナリ。其後大彦命ト武渟河別ト吉備津彦ト。丹波道主命ト四人ヲ將軍トシテ。四方ノ國々ヘ遣シ。戎夷ヲ平ケシム。是ヲ四道ノ將軍ト云。日本ニテ將軍ノ始ナリ。此時武埴安彦ト云ル人。謀叛シ。都ヲウカレケルカ。官軍相戰テ。武埴安彦ヒス。近國ステニ治ルニヨリテ。皇子豊城命ヲシテ。東國ヲ治シム。武諸區命ト云臣ニ。大連ト云官ヲサヅケ。政ヲ執シム。任那國ヨリ使者來テ。貢タテマツル。此國ハ三韓ノ内ナルヘシ。異國ヨリ貢ヲ獻スルコト是ヲ始トス。或説ニハ。任那國ヨリ來ル人。額ニ角アリ。船ニ乗テ越前笥飯浦ニ著タリ。故ニ其處ヲ角鹿ト名ク。笥飯ハ今ノ敦賀ナリ　在位六十八年ニシテ崩ス。歳百二十

十一代

垂仁天皇　崇神ノ太子ナリ。母ハ御間城姫ト云。大彦命ノ娘ナリ。大和國纒向ニ都シ。珠城宮ニ住ス。新羅國ヨ

リ天日槍ト云ル者來テ鏡玉刀桙等ノ寶物ヲタテ
マツル。天皇ノ后ヲ狹穂姫トイフ后ノ兄ヲ狹穂彦
ト云フ謀叛ノ志アリテ。ヒソカニ后ヲ呼テサヽヾニカ
タラヒテ。劒ヲ授テ天皇ヲ弑レメントス。后ヲソルヽト
イヘトモ。辭スルコト叶ス。劒ヲウケトル或時天皇后ノ
膝ヲ枕トシ。晝寢シタマフ。后如何セント案ジワヅラ
ヒ。覺ヘス淚ヲチテ。帝ノ顏ヘカヽル。此時帝ノ御夢ニ。
錦色ノ小蛇御頸ニマツハルトミテ目サメヌ。此夢如何
ナル故ニヤト。后ニ尋ラル。后アリノヽ申ス。天皇驚テ。
汝少シモ罪アラストテ。上毛野ハ細田トイフ大將ニ
命シテ。狹穂彦ヲ伐シム。狹穂彦稻ヲ積テ城トシテ
防戰フ。此時后悲ミテ。我兄ヲ伐セテハ后トナリテ
モ面目ナシトテ其產トコロノ譽津別皇子ヲ抱テ兄ノ
城ヘ入ル。官軍彌ス、ミテ。后ト皇子トヲハ出スヘキトイ
ヘトモ。狹穂彦同心セス。八綱田火ヲ放テ城ヲ攻落ス。
皇子ハ抱キ取テ免レタリ。狹穂彦ハ后ト共ニ亡ヌ。此
皇子成人ノ後。三十ニ及ヒテ。言コトアタハス。或時鵠
ノ鳴テ飛ヲ見テ。是何物ソト云テ。始テモノイフ
此御代ニ。大和國ニ當麻蹶速トイヘル大力アリ。又
出雲國ニ野見ノ宿祢トイヘル勇士アリ。此兩人ヲ召
テ。力ヲクラヘレム。野見力ヲサリテ。蹶速ガ脇骨ヲ折
腰ヲ蹍テ殺ス。是日本ニテ相撲ノ初ナリ。野見ニハ。
蹶速カ領地ヲ給リテ。都ニ留メテミヤヅカヘセレム。
此人埴ヲ以テ人形其外樣々ノ器ヲツクルコトヲ司

トル。其子孫代々榮タリ。菅原氏モコノ末ナリ

武淳川別ト。彦國葺ト。大鹿嶋ト。十千根ト。武日ト。五人ヲ大夫トシテ。政ヲ司レム　此帝ノ在位二十五年ニアタル三月ニ。皇女倭姫ヲシテ。天照大神ヲ。伊勢國五十鈴川上ニ祠リ奉ラル。今ノ内宮コレナリ。倭姫ハ。齋宮ノ始ナリ。八十六年ニ。初テ異朝ヘ使ヲ遣サル。後漢ノ光武皇帝ノ末年ニアタレリ　在位九十九年ニシテ崩ス。歳百四十。天下泰平ニテ目出度御代ナリ

十二代

景行天皇　垂仁ノ太子ナリ。母ヲ日葉酢媛トイフ。丹波道主ノ娘ナリ　天皇即位ノ後。美濃國ヘ行幸シ。其ヨリ大和ヘ歸リ。纒向日代宮ニ、シ、ス。其後筑紫熊襲謀叛シケレハ。天皇追討ノタメ。筑紫ヘ行幸アリ。先周防ノ國ニ赴キタ、フ。此國ニ神夏磯媛トイヘル女人。スクレタル大將ニテ。數多ノ人數ヲ率ケルカ。天皇ヘ帰服シ。其國ノ敵共ヲ平ケ。其ヨリ豊前ノ國ニ到リ。此國ノ岩窟ニ。土蜘蛛住ケルヲ平ケ。日向ノ國ヘ到リ。高屋ノ宮ニ居タ、フ。熊襲ノ大將八十梟師カ娘ヲ召テ寵愛シ。即其娘ヲカタラヒテ。八十梟師ニ酒ヲ勸テ是ヲ殺ス。此時海人腹赤ノ魚ヲ天皇ニ奉ルコトアリ。日向ノ國ニ、シ、スコト六年ニシテ。又筑紫ヲ廻リタ、フ。或時夜中船ニ乘テ岸ニツクコトヲ知ラス。遥ニ火ノ見ユル處ヲ、ニテ。船ヲ着タ、フ。其所ヲ名ツケテ。火ノ國トイフ　今ノ肥前肥後兩國是也　此時阿蘇宮明神人トナリテ

出テ天皇ニ、ミユ。其後天皇大和國ニ皈リタマフ。年ヲ
歷テ。熊襲又謀叛シケレハ皇子小碓尊ヲ大將トシテ
是ヲ討シム。尊御歳十六。身ノ長一丈。力強クシテ勇
ヲアク。熊襲大將ヲ川上梟師トイフ。一族ヲ聚テ酒モ
リシケル所ヘ尊僞リテ女ノ形トナリテ。往テ伺フ。川上
是ヲ見テ。美キ女ナリト思ヒタヅサヘテ一宿セシム。夜ニ
入テ人ナキ時尊袖ノ内ヨリ劒ヲ拔テ。川上カ胸ヲ刺
スリ。上驚テ。何者ゾト問フ。尊アリノ、ニ語ル。川上申
ケルハ。筑紫ノ内ニテ我ニ、サル大カナ。然ルヲ今尊ニ
殺サル。然レハ君ノ御名ヲ日本武尊ト申シタテマツル
ベシト云テ終ニ死ス。尊即其一族ヲ平テ。大和ヘ皈ルコ
トヨリ日本武尊ト名乘タマフ。其後東國ノ夷トモ謀

叛シケレハ。尊度ハ日本武尊ノ兄大碓皇子ヲ遣サルヘシ
ト沙汰アリケレドモ甚タヲソレテ逃竄ラル、ニヨリ。又
日本武尊ヲ大將トシ。東國ヘ遣サル。尊先伊勢大神宮
ヘ參リ。倭姫ニ逢テ寶劒ヲ給リテ進發ス。駿河國ニ到
ル時。野ヘ出テ鹿ヲ狩ル。夷共火ヲ放テ尊ヲ燒殺サン
ト。尊ノ帶タマヘル寶劒自ラ拔テ燃來ル草ヲナギ
拂フ。尊又燧ヲ打テ。火ヲ放ツ。其火敵ノ方ヘ向ヒモヘテ
敵悉ク燒殺サル。寶劒ヲ草薙劒ト云ルハ此イハレナリ
其ヨリ相模ノ國ヘ到リ。上総ノ海ヲ渡ル時。風イタクテ
尊ノ船危カリケレハ。尊ノ妾橘媛コレハ龍神ノ尊ヘ
タヽリヲナスナル。ヒ。君ノ命ニ替ントテ。自海ニ沉ミヌ。既
ニシテ風ヤミテ。御舟岸ニ著ク。其ヨリ陸奥國ニ到リ

蝦夷ヲ平ケ常陸ニ到リ筑波山ヲ歴テ甲斐國ヘ到リ
又武藏上野ヲ巡リテ碓日ノ坂ニ登リ東南ヲ望ミテ
橘媛ヲシタヒテアカツマトノタマフ東國ヲアツマト云
ハ此ノ人ノ名ナリ其ヨリ尊副將吉備武彦ヲ北陸道ヘ
遣シ尊ハ信濃ヲコヘテ美濃ヘ出武彦モ北陸道ヨリ
此所ヘ參會ス其ヨリ尊尾張ヘ出テ宮簀媛ノ娶テ
暫ク逗留セラル近江國膽吹山ニ惡神アリト聞テ
尊歩ニテ山ヘ登ル山神大蛇トナリテ途ニ臥ス尊
其蛇ヲ蹈テ通リ過ク此時山中ニ雲霧起テ甚ダ
暗シ尊ヤウヤク霧ヲシノヒテ山ヲ出其心ヨトヒテ酒
ニ醉ルカコトシ山下ノ泉ヲノミテ醒ス其泉ヲ醒井ト
云此ヨリ尊毒氣ニアタリ御身イタミ煩シキニヨリ

尾張ニ還リ伊勢ヘ移ル御痛イヨヽ甚キニヨリ武彦
ヲ使者トシテ東國ヲ平クル趣ヲ天皇ニ申ス暫ク
アリテ尊ハ伊勢國能褒野ト云フ所ニテ隱レタヽヒ
ス御歳三十ヲ後ニ白鳥ト化シテ大和國琴彈ノ原
ニ飛行ト云ツタヘタリ天皇甚タ歎キ悲ミメシテ
其後天皇武内宿祢ヲ以テ棟梁ノ臣トス諸臣ノ
カシラト云フノ義ナリ天皇晩年日本武尊ヲシタメ
フコトヤミヌシテ其平クル處ヽヲ見ントテ自ラ東
國ヘ行幸ス其ヨリ都ヲ近江國志賀ニ遷シ三年住
タマヒ志賀ニテ崩御セラル　在位六十年御歳百
六御子七十餘人アリ皆國ヽ郡ヽヘ分チ居シム
其子孫多シ

十三代

成務天皇　景行ノ御子日本武尊ノ弟ナリ。母ハ八坂入媛ト云。八坂入彦皇子ノ娘ナリ。近江志賀ニ都ヲ立テ。高穴穂宮ニ住タマフ。武内宿祢ヲ以テ大臣トス。是大臣ノ始ナリ。國々郡々ニ司サヨタテ其所々ヘ武具ヲ分チツカハシ。山川田畠村里ノ境ヲ分チ定テル。百姓悦テ。天下無事ナリ　在位六十年ニ ノ崩ス御歳百七

十四代

仲哀天皇　日本武尊ノ御子。成務ノ姪ナリ。日本武大功アリトモ早世ニヨリテ。帝位ニ即ス。故ニ成務ノ時此付京ヲ太子トシテ位ヲ譲ル。母ハ両道入媛ト垂仁ノ娘ナリ　天皇即位シ。御父日本武尊ヲ追ヒタテマツリ。諸國ニ詔シテ。白鳥ヲタマフニ。ツラシム尊白鳥ト化シタルユエナリ。此時大伴武持ヲ大連トシ大臣武内宿祢ニナラベテ。政ヲ行シム。後世ノ左右大臣ノ義ナリ。即位ノ明年越前角鹿ニ行幸シ。笥飯ノ宮ニ住タマフ。曾アリテ。皇后并百官ヲハ角鹿ニ留テ。紀伊國ニ行幸ス。此時熊襲謀叛ノ由聞ヘケレハ。天皇ハ直ニ長門國ヘ行幸。后モ角鹿ヨリ長門國ヘ参會シ。豊浦ノ宮ニ住タマフ。其ヨリ筑紫ノ橿日宮ヘ遷テ熊襲ヲ討コトヲ謀ル。其折節皇后ヘアヤシキ神託アリテ。熊襲ヲハサシラキ。新羅國ヲ討ルベシトツケラルヽトイヘトモ。天皇同心セズ。自ラ兵ヲ率ヒ

テ熊襲ヲ討タシフ軍中ニテ御身煩シクシテ程ナク
崩御シタシフ或ハ賊ノ矢ニアタリタシフトモ云リ
在位九年御歳五十二越前氣比大明神ハ此天皇ヲ
崇メ祠ルトナン

十五代

神功皇后　仲哀ノ后ナリ開化天皇ノ曾孫氣長宿禰
ノ娘ナリ　皇后筑紫ニテ懐妊ノ内ニ仲哀崩御ア
リシカハ武内大臣ト相談シ仲哀ノ崩御ヲカクシ官
軍ヲ遣シ熊襲ヲ討平シ其外ノ謀叛人ヲモ皆シ
ヅメタシフ皇后神託ニヨリカセ新羅ヲウタントヲホシ
メシ肥前國松浦ノ河ニテ鉤ヲナケ我思フコトカ
ナフヘクンハ此鉤ヲハムヘシト云テ鉤竿ヲアケタシフ
ハ細鱗魚ヲ得タリ今ニ至ルマテ此河ニ年魚多シ女
人鉤ヲキハ魚ヲ得男鉤トキハ魚ヲ得ストキ皇后
又櫃日浦ニテ御髪ヲトキテ曰我西方ヲウタントス
其驗アルヘクンハ我髪分レ而トナルヘシトニ御髪ヲ海
水ニヒタシ洗ヘハ忽両方ヘ分レケレハ即其分レ二ニ
分チ束子テ髪ヲトレニ男子ノ貌ヲ假テ群臣ト征伐
ノコトヲ議シタシフ即諸國ヘ勅シテ船ヲアツメ武
具ヲトヽノヘ軍兵ヲメシアツムヘシト云ル大弓モ此時
始テ作レリ皇后ミツカノ斧鉞ヲ取テ諸軍ノ下知シ
タシフ住吉明神ノ霊出テ御舟ヲ守リ先鋒スト云ツ
タヘタリ此神ハ水神ナルユヘナリ其外アヤシキ事ド
モ多シ皇后石ヲ取テ御腰ニハサミシナイノヒヒテ

願ハ后内ノ皇子征伐ヲハリテ還シ時ニ生シタマヘ
ヘトノタマフ御船ヲ和珥津ヨリ出ルトキ波風甚
アラカリケルカ海中ノ大魚多ク浮ヒ出テ御船ヲサ
レハ汁ニモリケレハ波風モタヤカニナリテ幾程モ
ナク新羅ヘ着タマフ新羅ノ王大ニ恐レ是ハ日本ノ神
兵ナルヘシトテ拒コトアタハス自ラ四八トナリ素キ
旗ヲ立テ降参シ求ク日本ノ奴トナリテ貢物ヲ捧ヘ
シト申ス官軍新羅王ヲ誅セントスル皇后下知シ
テ其命ヲユルシ遂ニ其國中ヘ入テ財寶ノ入タル府庫
ニ封ヲツケ繪圖書物ヲ収ムリ皇后ノ杖ニツキタマ
フ矛ヲ新羅王ノ門ニタテ後世ノシルシトス或説ニハ
新羅王ハ日本ノ犬ナリトヲニテ書ツケタマフ是犬

追物ノヲコリナリトモ云リ新羅王スナハチ人質ヲ
タテマツリ金銀并色アル絹サヽヲ船八十艘ニ
ツミテ奉ルコヨリ毎年八十艘ニ
ル高麗王百濟王コレヲキヽテヒソカニ人ヲツカハシ自
本ノ軍ノ勢ヲウカヽヒ敵對ヲリガタキコトヲサトリ
テ各自ラ皇后ノ御陣ニ參テ頭ヲタヽキ平伏シ今
ヨリ以後永ク日本ヘシタカヒ毎年ノ貢物ヲコタルヘ
カラスト申ス新羅高麗百濟ヲ三韓ト云今ノ朝鮮
是ナリ三韓スデニ平ケレハ大矢田宿祢ト云人ヲ新
羅ニ留テ鎮守將軍トシ三韓ヲ下知セシメテ皇后ハ
皈朝シタマフ異朝ノ書ニハ此時魏ノ帝ノ使者張政
ト云モノ來テ日本ト三韓トノ事ヲ調フト

イヘリ　皇后筑紫ヘ皈リ皇子ヲ誕生ス應神天皇
是ナリ其所ヲ宇瀑ト名ヅクコヽニヲヒテ皇后豊浦
ヘ皈リ仲哀天皇ノ喪ヲヲサメテ大和ヘ赴ク此時ニ
仲哀ノ妾ノ子麛坂王忍熊王二人兵ヲ起シ播磨國
ニテ皇后ヲ防キテ曰ク我ハ兄ナリ皇后ノ産トコロハ
弟トリ何ソ從フヘケンヤト云フ其ヲリフシ麛坂王將ニ
出テ赤キ猪ニ喰殺サル忍熊王ハ退テ山城國菟道
邊ニ陣ヲ張ル皇后武内宿祢ヲ大將トシテ忍熊王
ヲ伐ツ武内詐リテ曰ク忍熊王帝位ニ即ヘシ皇后母
子從ヒ奉ラルベシト云忍熊悅テ油斷スル所ヲ武内
急ニ攻ケレハ忍熊破レ走リテ勢田ニ沉ミ死スコレヨ
リテ皇后天下ノ政ヲ執行ヒ大和ノ磐余ノ宮ニ住タ

マフ仲哀天皇ノ葬禮ヲ執行ヒ産ルトコロノ皇子ヲ
太子トス異朝ノ魏ノ國ヘ使者ヲ兩度遣ス魏ノ國ヨ
リモ使者來朝ス互ニ贈物アリ又呉國ノ王孫權ハ自
本ヲ攻ントテ數萬ノ人數ヲ渡ストイヘドモ海上ニ
テ疫病ニカヽリテ死ルモノ多シ物ジテ此皇后ノ事
ハ異朝ノ書物ニモ多ク書記タリ　在位六十九年
ニシテ崩ス時百歳

十六代

應神天皇　仲哀ノ御子ナリ御母ハ神功皇后ナリ胎
内ニヽシヽス時仲哀崩御アリ皇后ノ腹ニヤトリタ
マヘハイマダ生レズトイヘリ既ニ帝王ノ正統ナリトテ
胎中天皇ト申ス生レタマヒエル時御腕ノ上ニ肉高ク

ソニリテ鞆ノゴトシ。鞆ハ籠ノコトナリ。此時分ニ籠ノ名ヲポンダトイフニヨリテ天皇ノ御名ヲ譽田天皇ト申ス。神功崩シテ後即位ノ日ニ官ニ任タマフ。蝦夷人ヲ召シテ厩坂道ヲ造ラシム。三韓ノ人ヲ召テ池ヲ掘シム。惣シテ此時ハ二韓殘ラス貢物ヲ奉リ。其國政モ皆日本ヨリ下知ス。武内大臣此代ニモ政ヲ執行ヒケルカ。或時勅使トシテ紫ヘ赴キケル間ニ大臣ノ弟甘美内宿禰讒言シ申ケルハ。武内筑紫ニテ三韓ヲカタラヒ謀叛セントスト奏ス。天皇怒テ使者ヲ遣シ。武内ヲ殺サシム。壹岐直ノ真根子ト云モノ。武内ノ命ニ替リテ死ス。武内ハ竊ニ飯リテ。科ナキ由ヲ申ス。天皇聞テ。武内ト甘美内ト。神前ニテ湯ヲ探シメ。其實否ヲ決ス。武内勝テ本ノゴトク官職ニ復ス。湯起請ノ起リハ是ナリ

此代ニ百濟國ヨリ王仁トイエル博士。論語等ノ書物ヲ持テ來朝ス。太子菟道稚郎子是ヲ師トシテ書ヲ讀習フ。又縫ヲヌヘル者モ。絹織ル者モ。糸綿ツミヒクモノモ。三韓ヨリ皆來ル。呉國ヨリ來レル者ヲハ呉織ト云。秦ノ始皇ノ子孫モ。後漢ノ帝ノ子孫モ。來朝スル者アリ。或時天皇吉野ヘ行幸スルトキ。此山ノ奥ノ國樔ト云所ニスメル者參リテ。醴ヲ奉ルコトアリ。吉野ノ國樔ノ内裏ヘ參ルコトハコレヨリ始レリ

在位四十一年ニシテ崩ス。御歳百十　此天皇欽明ノ代ニ神ト現シ豐前國宇佐宮ニ崇メ奉ル白幡

八流クダリ立タルイハレアルニヨリテ八幡大菩薩ト
申ス清和ノ御時山城國男山ヘ勧請セラレテ宗廟
トナレリ

十七代

仁德天皇　應神ノ御子ナリ母ハ仲姫ト云フ五百城
入彦皇子ノ孫ナリ誕生ノ日木菟ト云鳥來テ産殿
ヘ入ル同日ニ武内大臣モ子ヲウメリ鷦鷯ト云鳥來
テ其産屋ヘ入ル應神此ヲ聞テ實ニアヤレキコトナ
リ君臣其レルヲトリカヘテ名ツケントテ皇子ノ
名ノ外大鷦鷯ト云ヒ武内カ子ノ名ヲ木菟宿禰
ト云フ應神在位ノ時末子菟道稚郎子ヲ太子ト
シテ國ヲ讓リ大鷦鷯ヲ太子ノ輔トシテ政ヲ行シ
ム然ルニ應神崩御ノ後太子位ヲ大鷦鷯ニ讓ル大鷦
鷯イカデカ兄ナリトモ父ノ意ニソムクベケンヤト云テ
ウケズ互ニ相讓ルコト三年ニテ帝位定ラズ太子ハ
菟道ニニシテ大鷦鷯ハ難波ニラハレニス民ノ貢物
モ両方ヘ持運ドモタガヒニユツリテトラズ太子宣ヒ
ケルハ我生テ天下ヲハヅラハサンヨリハトテ自ラ死
シタマフ大鷦鷯驚テ行テ見レバ太子ヨミガヘリテ
辞ヲカハシテ遂ニ死ズコレニヨリテ大鷦鷯遂ニ即
位仁德天皇是ナリ攝津難波ニ都シ高津宮ニニシマ
ス儉約ヲ好ミテ内裏ノ宮造リモ色ドリカザルコト
ナシ百濟ノ王仁難波津ノ歌ヲ奉テ祝ヲノブ在位ノ
四年ニアタリテ高キ屋ニ登リテ望見ニ民ノ竈ノ

煙火カリケレバ百姓ノ貧キコトヲ覺テ年貢ノ外ノ課役ヲ免シ御衣ヤブルレドモ改メ調ヘズ御殿クヅレテ雨風モレトモ修理スルコトナシ御膳ヲモ減ゼラルカクテ三年ヲ歴テ又高キ屋ニ登リテ見タマヘバ竈ノ煙甚繁ク立ツヲミテ百姓ノ富ルヲシリテ大ニ悅ブ五穀モ饒ナリケレバ百姓等内裡ヲ修理セント望ム同心シタマヒズ又三年ヲ歴テ始テ内裏ヲ造リケレバ百姓老タルモ少キモ皆力ヲ竭シテ幾程モナク成就ス此天皇ヲ聖人ナリト譽タテマツルトナン或時高麗國ヨリ鉄ノ楯鉾ノ的ヲ奉ル天皇其使者ヲ内裏ヘ召シ盾人宿祢ニ命ジテ此鉄的ヲ射通サシム彼使者是ヲ見テ大ニ畏ル百濟國ヨリ酒君ト云人來テ鷹ヲスヘテ天皇ノ御狩ニ供奉シ雉ヲトル是日本ニテ鷹狩ノ始ナリ武内大臣ハ景行ノ時ヨリ以來成務仲哀神功應神ヲ歴テ此代ニ薨ス凡六代ノ間政ヲ執コト二百四十餘年其齡三百十七歳トナン或ハ三百三十歳トモ云リ子共多クアリテ子孫繁昌ス　額田皇子ト云人鬪鷄ノ山中ニ狩シテ夏ノ氷ヲ得テ天皇ニ奉ルコレヨリ氷室トテ冬ノ氷ヲ取テ春夏ニデ藏置コト始レリ

飛彈國ニ人アリ其名ヲ宿儺ト云身ハ一ツニシテ其面二ツアリ手足各四ツアリ力強ク身輕シ弓矢ヲ持劔ヲ佩テ人ヲナヤマス武振熊ト云人勅ヲ承テ是ヲ討殺ス天皇治世ノ間晝夜心ヲ政ニ盡シ民ヲ惠

三タニイシカバ天下泰平ニシテ王化大ニ行ル
在位八十七年ニシテ崩ズ

十八代

履中天皇　仁德ノ御子ナリ母ヲ磐之媛ト云武
内ノ孫葛城ノ襲津彦ノ娘ナリ　仁德崩御アリ
テ履中即位ナキ内田矢代宿祢カ娘黒媛ヲ娶ト
ト御弟住吉仲皇子ヲ遣シテ案内ヲ通セシム時
ニ仲皇子ヲノレ天皇ナリト名ノリテ黒媛ヲカス
ルトキニ鈴ヲワスレテ媛ノ所ニノコセリ其明夜
天皇媛ノ所ヘ行幸アリ鈴ヲ見テ此ハ誰カ鈴ゾヤ
ト云媛君ノ昨夜持來タ物ナリキト申ス天皇
驚テサテハ仲皇子既ニ媛ヲヲカセリト知テ言ナ

クシテ飯リタマフ仲皇子此事アラハレヌトヲソレ
テ知テ兵ヲ起シ内裏ヲ圍ム天皇少モヲモヒヨラ
ズ酒ニ酔テ臥タマフ平郡ノ木菟宿祢物部大前阿
知使主三人參テ俄ニフセグベキヤウモナケレハ天皇ヲ
馬ニ扶ケ乘セタテマツリ河内ヘ逃行仲皇子天皇ノ
逃出ルヲシラズ火ヲ放テ難波ノ内裏ヲ燒ク天皇大
和ノ國ヘ越テ人數ヲ聚ム此時御弟瑞齒別皇子難
波ヨリ馳參ル天皇汝モ仲皇子カ同類カト疑テ對
面セスシテ曰ク若實ノ忠心ナラハ難波ニ飯リテ仲
皇子ヲ殺スヘシ瑞齒別スナハチ木菟宿祢ト同道シ
難波ニ飯リ仲皇子ノ近習ノ者刺領巾ヲカタラヒテ
仲皇子ヲ厠ノ内ニ殺ス木菟宿祢瑞齒別ニ申ケルハ

刺領巾功マリトイヘトモ其已ガ君ヲ弑セル者ナレバ免スベキニアラストテ刺領巾ヲ殺ス仲皇子ノ同類悉ク亡ビケレハ天皇都ヲ大和ノ磐余ニ定メタマフ平郡木菟ト蘇我滿智宿祢ト物部伊莒弗大連ト圓大使主ト四人國政ヲ執ル御弟瑞齒別大功アルニヨリテ太子ニ立ラル或時天皇御船ヲ内裏ノ前ノ池ニ浮テ酒宴シタマフトキ櫻花御盞ノ内ヘ落ケレハ是ヲ賞シテ内裏ノ名ヲ稱櫻ノ宮ト名ツケラル諸國ニ文筆ニ達シタル者ヲ分チ置テ其國々ノ事ヲ記シム　生位六年崩ス御年七十

十九代

反正天皇　履中ノ弟ナリ初ハ瑞齒別皇子ト申セシカ仲皇子ヲ殺シテ功アルニヨリテ履中ノ讓リヲウケテ即位河内ノ丹比ニ都ス柴籬宮トニフス　在位六年ニシテ崩ス

二十代

允恭天皇　反正ノ弟ナリ生レツキ多病ニテ御父兄ノ心ニ叶ハズサレトモ仁孝ノ志アルニヨリテ反正崩御ノ後群臣相談シ位ニ即シメンニ申ス數度辭退シテ從ズ后忍坂大中姫シキリニスヽメ群臣ノ思ヨルトコロ如何サレヲカサルヘキト申スニヨリテ一年餘ヲ歷テ後即位シタマフ新羅ヨリスグレタル醫者來テ療治シケレハ御病モ愈ヌコレヨリ政ニ心ヲツケ百官諸臣ノ姓氏ヲ改メタヽシ真偽ヲ決ス　皇后忍坂大中

姫ノ妹ヲ衣通姫ト云容貌美シクタグヒナキニヨリ
テ天皇是ヲ召テ大和藤原宮ニヲキテ寵愛シタマ
フ皇后姤三甚クシテ自ラ焼死ナントト怒ルニヨリ
テ衣通姫ヲ河内ノ茅亭宮ニ置ク道ノ程隔タルニ
ヨリテ后ノ妬ミシ止ス天皇度々茅亭ヘ行幸アリ
我セコカクベキヨイナリサヽカニノクモノフルニイ
カヲテシルシレモト云歌ハ衣通姫ノ天皇ヲシタヒテ
ヨメル歌ナリ　在位四十二年ニシテ崩ス御歳七
十八　天皇ノ太子ヲ木梨輕皇子ト云淫乱ニシテ
國民シメガハス其弟穴穂皇子兵ヲ起シテ太子ト
相戦フ太子逃テ死ス或ハ伊豫國ヘ流ストモ云

二十一代

安康天皇　允恭ノ子トナリ兄ノ太子ヲ殺シテ即
位ス母ハ忍坂大中姫ト云二岐皇子ノ娘ナリ大和
國石上ニ都ヲ立穴穂宮ニ居ス天皇ノ叔父ニ大草
香皇子ト云讒言ニヨリテ天皇ノ心ニ叶ハサルコト
アルニヨリテ兵ヲ起シ大草香ヲ殺其妻中蒂姫ヲ
ハ内裏ヘ召テ寵愛セラル中蒂姫カ大草香ノ所ニ
テ生タル子ヲ眉輪王ト云母ノ寵愛ニミリ同ク内
裏ヘ出入スサレドモ天皇ヘダツル心マーリケレハ眉
輪ノ王ヲソル或時天皇姫ノ膝ヲ枕トシ臥時眉輪ノ
王ウカヽヒ來テ天皇ヲ弑レタテマツル　在位三年
歳五十六

二十二代

雄略天皇　安康ノ弟十リ安康弑サレスト聞テ雄
略急キ甲冑ヲ帯シ兵ヲ率ヒ内裏ヘ赴ク眉輪王畏
テ我帝位ヲ求ズ只父ノ仇ヲムクユルノミ十リト云テ葛
城圓大臣カ宅ニ逃隠ル此時雄略ノ兄ニ坂合皇子八
釣皇子トテ二人アリ雄略此二人モ眉輪王ト同心カ
ト疑テ自ラ刀ヲ拔テ八釣皇子ヲ斬殺スコレニヨリ
テ坂合皇子畏テ眉輪王ト同ク大臣カ宅ニ逃入ル
雄略使ヲ遣シ坂合皇子眉輪王ヲ出セト云大臣
サスガニ忍ビカタクテ出サス雄略大ニ怒テ大臣
カ宅ヲ圍テ火ヲ放ツ坂合眉輪王大臣皆燒死ス雄
略ノ從弟ニ市邊皇子ト云ハ履中天皇ノ子ナリ
雄略此人ノ帝位ニ登ミアランコトヲ疑テ此ヲ招キ
寄セ狩場ニテ射殺スコヽニヲイテ雄略泊瀬朝倉ノ
宮ニテ即位平郡ノ真鳥ヲ大臣トシ大伴連室屋物
部連目ヲ大連トシテ政ヲ行ハシム天皇生ツキアラ
クシテ人ヲ殺コトヲ好ム罪ナクテ死スル者多シ人
皆譏リテ大惡天皇ト申ス又狩ヲ好テシバ〳〵遊獵ス
或時葛城山ニテ此山神一事參會シテ物語スルコト
アリ　此代ニ新羅高麗百濟互ニ不和ニテ日本
ヘ貢物ヲコタリシカバ官兵ヲ遣シコレヲレヅメシム
三韓ノ内百濟專ラ日本ヘ從リ新羅高麗ハ從フコ
トモアリ背クコトモアリ　天皇在位二十一年ニ
アタリテ天照太神ノ神託アルニヨリテ二十二年ノ
九月ニ始テ豊受太神ヲ伊勢國度會郡山田原ニ

祠ラル。今ノ外宮是ナリ。同年丹波國水江浦嶋子
ト云モノ。舟ニ乗。釣ニ出テ。大ナル亀ヲ得タリ。亀化シ
テ女トナリテ。浦嶋ト夫婦トナリ。相共ニ蓬萊山ニ
至ルトイヒツタヘタリ。天皇在位一十三年崩ス。歳
六十二。初ハ政アラカリノルガ後ニハレヅカニテ國
家治ル

二十三代

清寧天皇　雄略ノ子ナリ。母ハ葛城韓媛ト云。圓大
臣カ娘ナリ。清寧ノ弟ヲ星川皇子ト云。雄略崩シ
テ後其母吉備稚媛ガスヽメニヨリテ。位ヲ奪ントス。大伴室屋大連東漢掬直等星川皇子ヲ并ニ稚媛
ヲ殺シテ。清寧ヲ即位。大和磐余甕栗ニ都ス。大伴
室屋大連平郡真鳥大臣政ヲ執レリ。天皇生ナカラニ
シテ御髪白カリケレバ白髪天皇ト名ヅケ奉ル
在位五年ニシテ崩ス

二十四代

顯宗天皇　履中天皇ノ孫。市邊皇子ノ子ナリ。市邊
皇子ハ雄略天皇ニ殺サル。其時顯宗幼少ニテ。兄ノ
仁賢ト共ニ身ヲヤツシ。卑キ者ノ子ヲシテ。幡磨國ヘ
逃行テ明石郡ノ忍海部細目ニ仕ヘ。牛馬ヲ牧テ。其名
ヲ顯サズ。或時幡磨國司山部小楯明石郡ニ到リ。顯
宗ヨキ時節ト思ヒ。小楯カ前ニテ舞謡テ。其舞ノ
中ニ履中孫ト云コトヲ謡フ。小楯大ニ驚キ。急ギ清
寧天皇ヘ奏聞ス。清寧子ナキニヨリテ。コレヲキヽテ

大ニ悅ビ顯宗仁賢相共ニ迎取テ養子トス。清寧
崩御ノ後兄ナレハ仁賢即位シタ、ヘトイヘハ仁賢我
ハ兄ナレドモ弟ニシカス。其上小楯ニ逢テ。名ヲ顯ス
ニトモ皆弟ノ所爲ナリト言テ讓コレニヨリテ。其
姉飯豐皇女シレバラク位ニツキテ。政ヲ行フ。此皇女
一タビ夫ト交テ後男女ノ道スデニ知レリト云テ。其
後ハ夫ニ會スルコトナシ。皇女位ニアルコト十月アヽ
リニシテ崩ス。飯豐天皇ト云トモ。一年ニタニ及ハ
ヌ。王代ノ數ニイレズ。コヽニヲヒテ。大臣大連等。顯宗
仁賢ニ即位ノコトヲスヽム。兄弟猶互ニ讓ルトイヘ
トモ。仁賢カタク辭退スルニヨリテ。顯宗即位大和
ノ釣宮ニ住タヽフ。百官皆悅テ仕ヘタテマツル。三月

三日ニ。曲水宴ヲ開クコトハ。此御代ヨリ始ル。山部小
楯ニ山官ヲ授テ富榮ヘシム。山官ハ山ノ奉行ノ事ナ
ルヘシ。御父市邊皇子殺レシトキ。所ニテ死シ者
ノユカリヲ尋テ褒美セラル。置目ト云ル老嫗アリ。
市邊皇子ヲ葬リ埋シ處ヲシリテ言上シケレハ。天皇
悅テ。其處ニ行テ。父ノ骨ヲ掘出シ歎キタヽフ。置目
ニ樣ヽノ賜モノアリ。大和國ニ猪甘ノ老人ト云モノ
アリ。天皇流浪ノ時。此老人ニ逢ケレハ。老人天皇ノ
ワヅカニタクハヘタル粮ヲ奪トレリ。此恨ニヨリテ。
即位ノ後此老人ヲ呼出シ。飛鳥河原ニテ斬殺ス。其
一族ヲハ膝ノ筋ヲ斷切テカタハトス。其子孫ニ至ル
ニテ。代々皆跛タリトナン。天皇治世ノ間。民ニ課役

ヲカクルコトナカリケレバ百姓富テ五穀豊ナリ
銀銭一文ヲ以テ稲一石ヲ買フ　在位三年ニシ
テ崩ス歳三十八

二十五代

仁賢天皇　顯宗ノ兄ナリ顯宗崩シテ後位ニ即タ
マフ大和石上廣高宮ニ住タマフ國家無事ニシテ
五穀豊ナリ在位十一年ニシテ崩ス

二十六代

武烈天皇　仁賢ノ太子ナリ此時平郡真鳥大臣雄
略ノ時ヨリ政ヲ執リテ威ヲ振フコトニ至リテ仁賢
崩御武烈イマタ即位セサルトキ真鳥ヒソカニ帝
王タラントヲ思フ志アリ此折節物部麁鹿火ガ娘

影媛ヲ武烈娶ントスル處ニ真鳥ガ子鮪臣スデニ
影媛ヲヲカセリ又真鳥カ家ニ馬アリ武烈是ヲ求
レドモ奉ラス武烈怒テ大伴金村ニ語テ數千ノ兵
ヲ金村ニ相添先鮪臣ヲ殺シ真鳥ヲモ攻殺ス真鳥
ノ孫ナリ　武烈即位ノ後悪逆無道ニ亡リ大和泊瀬列城宮
ニ居テ或ハ胎メル女ノ腹ヲサキテ其内ヲ見或ハ人ノ
爪ノ甲ヲ拔テ薯蕷ヲ掘シメ或ハ人ヲ木ニノボセテ
其木ヲ切倒シ或ハ弓ヲ以テ是ヲ射落ス或ハ人ヲ池
ノ樋ヘ入テ矛ヲ以テ突殺ス或ハ女ヲ裸ニシテ板ノ
上ニ居シメテ馬ヲ牽テツルヽシム其外奢ヲ極メ酒
色ニ耽リ人皆畏テ悪ニスト云コトナシ　在位八年ニ
シテ崩ス子ナシ　仁德天皇ノ王孫ハコヽニ至テ絶タリ

二十七代

繼體天皇　應神天皇五世ノ孫ナリ。應神ノ御子ヲ。二派皇子ト云。其子ヲ太郎子ト云。其子ヲ彦主人王ト云。是繼體ノ父ナリ。或說ニハ。應神ノ御子ノ私斐王ト云。其子ヲ彦主人王ト云。是繼體ノ父ナリト云リ。繼體年久ク越前國ニ住タマフ。武烈崩レテ。仁德ノ王孫絶ケレハ。大伴金村大連物部麁鹿火大連巨勢男人大臣等相談シ。繼體ヲ迎ヘ奉ル。樟葉宮ニテ。金村御鏡寶劔神璽ヲ奉ル。繼體五度ニテ辭退スレトモ。金村等レキリニスヽメ申ニヨリテ。即位シタマフ。時歲五十八。金村男人。麁鹿火。三人政ヲ執ル。都ヲ山城筒城ニ遷シ。後ニハ同國乙訓ニ都ス。其後ニ又大和磐余玉穗宮ニ遷ル。筑紫ニ磐井ト云者アリ。謀叛ヲ起シ。肥前肥後豐前豐後ヲ押領シ。三韓ノ貢物ヲ押ヘテ奪取ル。天皇金村ト議シテ。麁鹿火ヲ大將トシ。斧鉞ヲ授ケ。筑紫ノ事ハ汝ニ任ス。賞罰心ノヽヽ行ヘ。奏聞ニ及ヘカラスト宣フ。麁鹿火即進發シ。御井郡ニテ合戰シ。磐井ヲ切テ。筑紫ヲレヅム。近江ノ毛野ト云者ヲ。三韓ヘ遣シ。政ヲ行シム。毛野三韓ニ到テ。勅詔ヲ宣ルトキハ。高所ニ登テイヒワタス。三韓ノ諸臣庭ニアリテ是ヲ承ル。此代百濟國ヨリ。五經ノ博士段揚尔ト云者來朝ス。其後高安茂ト云博士來テ。段揚尔ニ替ル　天皇在位二十五年ニシテ崩ス。歲八十。或ハ在位二十八年トモイヘリ

二十八代

安閑天皇　繼體ノ長子ナリ。母ハ目子媛ト云。繼體
越前ニアリシ時ノ妃ナリ。天皇即位ノ後都ヲ大和
ノ勾金橋宮ニ遷シタマフ。金村相繼テ政ヲ執ル。國
家豊ニ五穀ミノレリ。　在位二年ニシテ崩ス。吉野金
峯山ノ神ハ此天皇ヲ崇トイヒツタヘタリ

二十九代

宣化天皇　安閑ノ弟ナリ。安閑子ナキニヨリテ位ニ
ツク。都ヲ大和ノ檜隈廬入野宮ニ遷シテ住タマフ。
蘇我稻目ヲ大臣トシテ。金村鹿鹿火ニ加ヘテ政ヲ
執シム。天皇詔シテ曰ク。黃金萬貫アリトモ飢ヲ救
ヘカラス。白玉千箱アリトモ寒ヲ救ヘカラス。シカレバ
五穀ハ天下ノ本ナリトテ。稻目鹿鹿火ニ命シテ。國
々ニ御藏ヲ立テ。粮ヲ積タクハヘシム。タトヒ不慮ノコ
トアリトモ。人民ノ命ヲ救フベシトノ心ナリ。此時三
韓ノ内ニテ。新羅ト任那ト爭フコトアリ。大伴狹手
彦ヲ遣シテコレヲシヅメシム。狹手彦カ妾松浦佐用
嬪別ヲヲシミテ山ニ登リテ。其船ヲ望ミ歌ヲヨム
コトアリ。狹手彦ハ金村カ子ナリ　天皇在位四年
ニシテ崩ス。歲七十三

三十代

欽明天皇　繼體ノ子ナリ。母ハ手白香皇后ト云。仁賢
ノ娘ナリ。繼體即位以後ノ后ナリ。故ニ安閑宣化ト
別腹ナリ。宣化崩シテ。欽明即位ス。都ヲ大和ノ磯城

嶋ニ遷シ金刺宮ニ住タマフ此時三韓ニ亂アリテ新
羅高麗二ツニナリ百濟任那ヲ攻メ日本ヨリ百濟
任那ヲ救フ日本ノ使者膳臣巴提使ト云者百濟ヘ
赴ク路次ニテ雪ニアヒ海邊ニ一宿ス其携タル小兒
ヲ虎食殺ス巴提使怒テ其足跡ヲ尋テ山中ニ入
虎口ヲ開テ進ミ來ル巴提使左ノ手ニテ虎ノ舌ヲ
握リ右ノ手ニ刀ヲ取テ虎ヲ刺殺シ其皮ヲハギト
リテ飯朝ス　天皇治世ノ十三年ニマタリテ百濟王
使者ヲ獻シ釋迦佛像并幡天蓋并佛經ヲ獻ル天
皇悅ブ大臣稻目コレヲ拜シタマヘトスヽム物部尾
輿等申ケル公本朝神國ナレバ天皇ノ拜シタマフ神
多シイカデカ異國ノ神ヲ拜センヤ恐クハ本朝ノ神

ノ怒ヲイタスヘシ此ニヨリテ天皇拜セズ其像ヲ稻目ニ
タマハル悅テ拜受ス其家ヲ捨テ寺トシテ向原寺ト
号ス佛像ヲ安置スコレ日本ヘ佛法渡リテ伽藍ヲ作
ル初ナリ幾程モナク諸國ニ疫病ハヤリケレバ尾輿等
コレ佛ノ災ナリト申スニヨリテ佛像ヲ難波堀江ヘ捨
テ寺ヲ燒其後又再興セラル又百濟國ヨリ五經博
士易博士曆博士醫博士并ニ藥ヲミシル者ヲタテ
マツル沙門ノモ十餘人奉ル高麗新羅ハヤヽモスレバ
日本ヲ背クニヨリテ大伴狹手彦ヲ高麗ヘ遣シ是
ヲ攻ム狹手彦進テ王宮ニテ攻入ル高麗王ワツカニ
免テ逃去ル其寶物ヲ取テ天皇ニ獻ジス大臣稻目
ニ贈ル新羅ヘ遣サル官軍ノ中伊企儺ト云モノアリ

新羅ヘ生捕レケレハ降参セヨト云。從ハス。新羅人。刀ヲ拔テ是ヲヲドシ。伊企儺カ臂ヲ日本ノ方ヘ向ハシメ。日本ノ將我臂クラヘト云ベシト責ケレハ。伊企儺聲ヲ揚テ。新羅王我臂クラヘトヨハヽル。敵怒テ是ヲ殺ス。其後新羅モ又日本ヘナビク　天皇ノ末年ニ。始テ神託アルニヨリテ。八幡大神ヲ豐前ノ宇佐郡ニ崇祠ラル。山城國加茂明神モ此代ニ初テ祭ラルト云リ。天皇在位三十二年ニシテ崩ス

三十一代

敏達天皇　欽明ノ太子ナリ。母ハ石姫ト云。豊化ノ娘ナリ。天皇即位ノ始。物部守屋ヲ大連ト。蘇我馬子ヲ大臣トス。守屋ハ尾輿カ子ナリ。馬子ハ稲目ガ子ナリ。此時高麗ヨリ表ヲ奉ル。烏ノ羽ニ書ケレハ。學士レテ見知ユトナシ。王辰尔ト云者。是ヲ飯ノ上ニ置テ蒸テ。帛ヲ以テ烏ノ羽ノ上ヲラシケレハ。其文字皆帛ニ寫テ是ヲ讀ム人皆感ス。其後内裏ヲ譯語田ト云所ニ立テ都レモフ。百濟ヨリモ新羅ヨリモ佛像經論ヲ奉ル。天皇ハ文史ヲ好テ。佛法ヲ信セス。天皇ノ御姪厩戸皇子并馬子ノ大臣甚好ミテ崇敬ス。此時又疫病ハヤリケレハ。守屋奏聞シケルハ。是馬子カ佛法ヲ信ズルタヽリナリ。ヨロシク佛法ヲ断絶スヘシト申ス。天皇然ルヘシトノタマフ。守屋即チ自ラ寺ヘ赴キ。堂塔ヲ打毀リ。佛像ヲ焼捨。其灰ヲ難波江ヘ流ス。僧尼ノ衣ヲハギテ追放ス。馬子涙ヲ流シ

テ悲ム其後馬子病氣ニヲカサレケレバ奏聞シテ
ヒヒガ病佛カニアラズンバ愈ガタシト申ス天皇キ
コシメシテ汝獨佛法ヲ行ヘトユルシタマフ馬子コヽニ
ヲキテ又佛法ヲ再興ス　天皇在位十四年ニシ
テ崩ス歳四十八或說ニ二十四ト云ルハアヤマリナリ

三十二代

用明天皇　欽明第四ノ子母ハ堅塩媛ト云蘇我稻
目カ娘ナリ敏達崩シテ用明即位ワヅカ二年ニシ
テ病ニカヽリタマフ佛ニ祈ント議ス守屋并中臣勝
海コレ無益ノコトナリト諫ム馬子誰カ勅定ニ從
ハザラントテ豐國法師ト云者ヲ内裏ヘ呼寄ケレ
ハ守屋ニラミイカル天皇ノ御子廐戸皇子ト馬子

トハナタ睦シカラスシテ天皇崩ス守屋ヒソカニ天
皇ノ弟穴穗部皇子ヲ立テントス馬子從ハス穴穗
部ヲ殺ス遂ニ廐戸并諸皇子達ヲカタラヒ軍ヲ起
シテ守屋ヲ攻ム守屋拒戰テ三度勝ツ其後跡見
赤檮ト云者ノ矢ニ守屋ニアタリテ死ス其一族皆
亡フ廐戸皇子始テ攝州四天王寺ヲ作ル守屋ヲ
討ツ時ニ祈念スルユヘナリ守屋カ領地一萬頃ヲ
分テ赤檮ニ給リ其外ヲハ皆天王寺ノ領トス廐戸
皇子ハ聖德太子ノコトナリ其誕生ノ時母廐邊ニ
ヤスラヒテ産スルユヘニ廐戸ト云用明天皇愛シテ
内裏ノ上ノ宮ニ置ユヘニ上宮太子トモ云生ツキサト
クカシコキユヘニ聖德太子ト云又八人シテ奏スル

コトヲ丁度ニ聞テ決スルユヘニ八耳太子トモイフノ豊
聰トモ云コレモ耳ノハヤキ義ナリ

三十三代

崇峻天皇　用明ノ弟ナリ馬子カハカラヒニテ即位
馬子甚タ威ヲ振ヒケレバ天皇コレヲ悪ム或時山猪
ヲ奉ルモノアリ天皇コレヲ三テイツカコ猪ノ頸ヲ
切コトク我キラフ者ヲ斬ベキト宣フ厩戸皇子モ
此時御前ニ侍ルトナン宮女寵衰テ天皇ヲウラム
ル者アリ此事ヲ馬子ニ告グ馬子畏テ勇士東漢
直駒ト云者ヲカタラヒ御寝所ニ入テ天皇ヲ弑ト
奉ル　在位五年東漢直駒ヒソカニ馬子カ娘河上
姫ニ通ズ馬子怒テコレヲ捕テ樹ニ縛付射殺テ其首
ヲ斬ル此時三輩ノ抑ノタメニ日本ノ官軍數萬筑紫
ニ陳ス馬子急キ使ヲ遣シ都ニ亂アレドモクハルコト
ナシサハクコトナカレト相鎬

三十四代

推古天皇　女帝　欽明ノ御娘用明ト同腹トー敏達ハ別
腹ナリ故ニ十八歳ノ時敏達ノ后トナル敏達崩シ
テ用明崇峻皆程ナク崩スルニヨリテ蘇我馬子カ
ハカラヒニテ推古即位ス　在位三十九神功皇后女
主ニテ天下ノ政ヲ聞エヘシ王代ノ數一入トイヘドモ
イマタ真ノ天子ノ位ニハツカズ故ニ皇后ト云テ
天皇ト云ズ推古ニ至テ真ノ天皇ノ位ニツクト本
女帝ノ始メナリ御姪厩戸ノ皇子ヲ太子トシテ攝

政セレム是攝政ノ始ナリ。太子時ニ歳二十一。馬子ト心ヲ同シテ佛法ヲ興シ伽藍ヲ建立ス。三韓ヨリ名アル僧多ク來ル。天皇ハ小墾田ノ宮ニ、シテ。太子ハ班鳩宮ニ居テ。甲斐驪駒ニノリテ。毎日天皇ヘ出仕ス。太子自ラ憲法十七箇條ヲ定メ。世ニ行フ。憲法ハ。法度ノコトナリ。又大德小德大仁小仁。大禮小禮。大信小信。大義小義。大智小智トイヘル十二ノ冠ノ名ヲタテ、其冠ノ色ヲカヘテ十二階ノ位ヲ定ム。此異朝ニテハ隋ノ煬帝ノ時ニアタレリ。日本ヨリ小野妹子ヲ使トシテ隋ヘ遣ス。其書簡ヲ太子書レケル。其辭ニ。日出ル處ノ天子書ヲ致スト。沒處ノ天子羔チシヤト云ケム。煬帝是ヲ見テ文

言無禮ナリトテ。悅ズ。妹子歸朝ノ時。隋ヨリ使者裴世清ヲ添テ。日本ヘ來朝ス。都ヘ入。官人ヲ遣シテ。是ヲ迎ヘシム。世清煬帝ノ書簡ヲ持シテ參內。饗應ヲタマハル。世清歸トキ又妹子ヲ添テ遣サル。此度ハ高句玄理ト云人。學問ノタメニ。妹子ニ從テ隋ヘ赴ク。年ヲ歷テ妹子歸朝ス。玄理ハ。三十餘年ヲ經テ歸朝セリ。俗說ニ。太子ハ南岳思大和尚ノ生レガハリ。其前生取持ノ法華經ノ南岳ニアルヲ。妹子ニ云ヒフクメテ取寄ラルトイヘトモ。日本紀ニハ見ヘ侍ラズ。其後隋ノ代亡テ。唐ノ代トナルニヨリテ。大上ノ御田鍬ト云者ヲ勅使トシテ。大唐ヘ遣サル。是遣唐使ノ初ナリ。太子馬子ト相議シ。日本前代帝王ノ紀ヲツクル。今ノ舊事本記

是ヨリ太子攝政スルコト二十一年ニシテ天皇二十
キタチテ薨ス歳四十九常ニ慈悲ノ心深シテ殺生ヲ
好ミス群臣ヲ飯食スルニモ菜羹ヲ用ユ尊佛法ヲ信シ
テ或ハ經ヲ講釋シ或ハ經ノ註ヲ作ル天王寺ノ外寺ヲ
造ルコト九箇所ナリ或時太子片岡ヲ過ルトテ飢者
ヲ見テ衣食ヲ賜フ其餓者歌ヲヨミテ奉ル其後餓者死
ス太子是ヲ葬ノ山者タヽヒトニアラズト思テ後日ニ
墓ヲ開テ見レハ衣服バカリアリテ其屍ナシ人ノ後世
ニ是ヲ文殊ノ化現ナリト云リ禪家ニハ之レヲ達磨ト
ト云リ太子薨シテ後馬子猶政ヲ執テ三寶ヲ信ス
或時僧ノ十二斧ヲ執テ其祖父ヲ打者アリコレニヨリテ
馬子奏聞シ百濟ノ僧觀勒ヲ僧正トシテ僧中ノ事ヲ
司ドラシム此僧官ノ始ナリ此時天下ノ寺數四十六僧
八百十六人尼五百六十九人アリシカ此後次第ニ多
クナレリ高麗ヨリ惠灌ト云僧來テ三論宗ヲヒロム
其後馬子モ死ス敏達ノ時ヨリ此時ニテ大臣ノ位ニ
居ルコト五十五年ナリ　崩ス歳七十五

三十五代

舒明天皇　敏達ノ嫡孫押坂彦人皇子ノ子ナリ推古
崩スル時舒明ヘ遺勅アリトイヘトモイマタ太子ニ立ス
コレニヨリテ聖德太子ノ子山背王モ帝位ニ望ミアリ
大臣蘇我蝦夷馬子群臣ヲ聚メイツレカ然ルヘキト相
談シ推古遺言ヲ用テ舒明ヲ立テ天皇トス飛鳥岡

本宮ニ住タマフ。即位ノ後大上三田鍬等ヲ遣唐使
トス。其歸朝ノ時大唐ヨリ高表仁ト云ル者勅使ト同道
シテ來朝セリ。難波ニテ迎船ヲ遣ス。歸國ノ時對馬
ニテ送ラレム。是唐ノ太宗皇帝ノ時ニアタレリ。此代ニ
三韓皆從ヒ。世モ治リシカトモ。彗星度々出。其外メヅラ
シキ怪異見ル。又大風霖雨等モアリ。惠隱ト云ル僧ヲ宮
中ヘ召テ。無量壽經ノ說シム。內裏ニテ齋ヲ設ケ經ヲ
講スルコトヒコレヨリ始レリ　大皇治世ノ間攝州有間
ノ溫湯ヘ行幸アリ。又伊豫ノ溫湯ヘモ行幸セラル。其外
方々ノ遊獵セラル　在位十三年ニシテ崩ス

二十六代

皇極天皇　敏達ノ曾孫押坂彥人皇子ノ孫茅渟王
ノ娘ナリ。舒明ノ后トナル。舒明崩シテ。后天皇ノ位ニ即
ク。飛鳥ノ板蓋宮ニ住タマフ。蘇我蝦夷大臣トナリテ政
ヲ行フ。三韓ヨリ使者來テ。舒明ヲ弔ヒ。皇極ノ即位ヲ
賀ス。其年大ニ旱シケレバ。樣々ニ神ニ祈リ。又蝦夷ガ
ハカラヒニテ。經ヲ讀。佛ニ禱レトモ雨降ス。天皇自ラ
南淵川ニ行幸アリテ四方ヲ拜シ。天ニ祈リシカバ五
日ノ間大雨打續テ。民皆大ニ悅ヒ。萬歲ト呼フ。此時
大臣蝦夷蒼ノアヒ。ニ。己カ祖廟ヲ葛城ニ造リ。其儀
式天子ノ歌舞ヲ執行フ。蝦夷カ子ヲ入鹿ト云其威
勢父ヨリモ勝リ。自ラ國ノ政ヲ執行フ。人皆ヲソレ入鹿
ガ一名ヲ鞍作ト云リ。蝦夷病ニ罹ケレバ。其著スル紫ノ
冠ヲ私ニ入鹿ニ讓リ。大臣ニ准ス。入鹿イヨ〳〵威ヲ振フ。聖

德太子ノ子山背王ト入鹿不和ナリケレハ巨勢德太師
連ニ兵ヲソヘテ山背王ノ住ル斑鳩宮ヲ攻ム山背王ノ
奴ニ成ト云者一人當千ノ兵ニテ拒キタヽカフ太師連
詐レヌ入鹿カ兵引退ク其隙ニ山背王馬骨ヲ取テ
室内ニ置キ其妻子ヲトモナヒ竊ニ逃出テ膳駒山ニ
カクル三輪君田目連等從ヘリ巨勢德又進テ斑鳩宮ヲ燒
下灰燼ノ中ニ燒タル骨多ケレハ山背王燒死給ヘリト思ヒテ
ヤカテ圍ヲ解テ引退ク三輪君申ケルハコレヨリ翻テ國
一向ヒ軍ヲ起スヘシ入鹿ヲ亡セト云フ山背王我一人ノユヘヲ以
テ萬人ヲ煩スヘカラスト云テ從ス西五日ヲ經ルウチニ入鹿
聞付テ軍兵ヲ遣シテ是ヲ尋ス山背王竊ニ山ヲ出テ斑鳩
ニ歸リ三輪君ヲ使トシテ我軍ヲ起サハ勝ヘキ道アリ然レ

人ヲナヤマスコトヲカナシム故ニ我身ヲ入鹿ニアタフ
ルナリトテ妻子相共ニ自害シテ亡フ山背王ハ聖德
太子ノ子ナレハ世ノ人皆ヲモンシテ威勢アリシヲカ
クヒシケレハ入鹿ニスヽ逆威ヲ振フ世ノ人入鹿ヲ
惡マスト云フコトナシ此時樣ヽノ怪異アリ
天皇治世ノ三年正月ニ中臣鎌足ヲ神祇伯ノ官ニ
任ス病者ナリト云テ辭退シ三嶋ト云所ニ居ス此時天
皇ノ弟ニ輕皇子ト申ス人アリ脚氣ヲ煩ヒテ出仕シ
タマハス鎌足ト中ヨカリケレハ輕皇子ノ許ヘ參テ宿
直ス輕皇子其志ノ感シ元來タヽ人ニアラサルコトヲ
知テ寵愛ノ女ヲ鎌足ニ遣シ懇ニウヤマフ鎌足モ過
分ノコトニ思ヒ輕皇子ノ舍人ニ向テ云ケルハ此皇子ナヲ

天下ノ主トナレタテマツリ此恩ヲ報ゼント願フトカタヽ
レバ輕皇子傳聞テ大ニ悅ブ舒明天皇ノ御子ニ中大
兄皇子ト申マヰリコレモ大キナル志アリ鎌足元來智惠
有テ世ヲ救ヒ正サント云フ志アリ蘇我入鹿カ君臣
ノ禮ヲ失ヒ社稷ヲウカヽフ企アルコトヲ憤テ諸ノ皇
子ノ内ニ功名ヲ立ヘキ人ヲ求テ見ルニ中大兄ニ如クハナ
シ然レドモ志ヲ云フ便リナシアルトキ中大兄法興寺
ノ槻木ノ下ニテ毬ヲ打玉フ時鎌足モ其會ニアツカレ
リ中大兄ノ皮履ノヲツルヲ見テ鎌足掌ニスエテ跪テ
奉ル大兄モ跪テ受玉フ是ヨリ交リ中ヨク成テ互ニ心
中ヲカクサズ昵バレケルガ人ノ疑フ事モコソアレトテ
南淵先生ト云ヘル儒者ニ道ヲ問トテ大兄モ鎌足モ手

ニ書ヲ取テ周公孔子ノ教ヲ學バル其往還ノ道スガラヒ
ソカニ家事ヲ謀ル鎌足申サレケルハ大事ヲ謀ル者ハ助ケ
アルニハシレカレ願クハ蘇我倉山田麻呂ガ女ヲ娶テ昵近
ツキ其後謀テ功ヲナサハ速ニナルベシト云フ大兄聞テ
其儀ニ隨フ鎌足自ラ往テ媒ヲナシ彼女ヲ大兄ニス
ム鎌足又佐伯子麻呂蒼城細田トイフ二人ヲ撰用テ
大兄ニスヽム是謀ヲハシラズシテ入鹿新ニ家ヲ造リ
父蝦夷ガ家ヲモ已カ家ヲモ宮門ト名ツケ男女ノ子
共ヲハ王子ト稱ス家ノ外ニ城ヲ構ヘ藏ヲ作テ武具
ヲタクハヘ置水舟ヲ多ク造テ火災ノソナヘトス父子
共ニ出入スルゴトニ勝レタル勇士ニ矛ヲ持シメ從シム
家ニ居ルトキモ用心ヲコタルコトナシ同四年六月朝

日中大兄倉山田麻呂ニ語テ曰ク二韓貢ヲ奉ルノ日必汝ヲシテ其表狀ヲ讀シムヘシ其時入鹿ヲ斬ルベキノ謀ヲ告ラル倉山田麻呂同心シス此月十二日天皇大極殿ニ出タマフ鎌足入鹿カ心ニ人ヲ疑ヒ晝夜劒ヲ持コトヲ知テ佯サラキノ者ニオシエテタハカリテ劒ヲ解シム入鹿笑テ劒ヲサシラキ御前ノ坐ニ列スワサヲキハ今狂言スル者ノ類ナリ倉山田進テ三韓ノ文ヲ讀ム爰ニ中大兄衛士等ヲ警テ十二ノ御門ヲ閉人ノ往來ヲ止メ衛士ヲ一所ニ召聚テ祿物ヲ賜ハント云謀ノ沙汰アリサテ中大兄ハ自ラ長キ戈ヲ取テ御殿ノワキニカクレ鎌足ハ弓矢ヲ取テ守ル勝麻呂ト云者ニ笞ヲ持セテ子麻呂綱田ノ

兩入三授ク笞中三ツ一ツノ劒アリ速ニ入鹿ヲ斬レトイヘドモ子麻呂ヲソレケレハ鎌足コレヲ勵スサレドモ倉山田文ヲ讀果ントスレトモ子麻呂進ミ來ラサル故ニ汗ヲ流シ聲フルイ手ワナヽク入鹿怪ンテ問テ云ク何故ニフルイワナヽクヤト云フ倉山田答テ云ク御前近キ故ニ最忝ク汗ノ流ルヽヲホヘズト云ヘリ中大兄子麻呂等カ入鹿ヲ畏テ進ミザルヲ見テ咄嗟シテスナハチ子麻呂等ト同時ニ劒ヲ取テ入鹿カ頭ト肩トヲ斬ル入鹿驚テ立ントスル處ヲ子麻呂劒ヲ振テ入鹿カカタ足ヲ斬ル入鹿コロビタヲレテ頭ヲタヽキ御座ニ向テ云ク臣何ノ罪ト云ユトヲシレラズ明ニ察シタヽヘト云フ天皇モ大キニ驚キ

王ヒテ中大兄三詔シテ是何事ゾヤトノタマフ中大兄
平伏シテ奏聞シ丁曰ク入鹿諸王子ラ滅シテ寶祚ヲ
傾ントス如何ソ天位ヲ以テ入鹿ニ易ンヤト云フ天皇ス
ナハチ立テ内ニ入ヒヌ子麻呂細田遂ニ入鹿ヲ斬
殺ス此日雨降テ潦水庭ニ滿リ筵障子ヲ以テ入鹿
ガ死骸ヲ掩フ中大兄其ヨリ法興寺ニ城ヲ構フ諸
皇子達皆從フ又蝦夷ガ方ヘ赴ク者モアリ中大兄人
ヲシテ入鹿ガ死骸ヲ蝦夷ニタヽハル又巨勢德ヲ大
將トシテ蝦夷ヲ攻シメ其黨類ニ告テ曰ク古今ノ
間誰カ君臣ノ道ヲ知サラン何ゾ賊臣ニ從ヲヤトイヘ
バ蝦夷カ徒黨皆逃去ス蝦夷スナハチ家ニ傳レル舊
記并ニ財寶共ニ燒捨テ後其身モ誅セラレヌ此時日本

前代ノ記録多ク失タリ其燒殘ル所ヲ舟史惠尺トリ
ヲサメテ中大兄ヘ奉ル天位ヲ中大兄ニ讓ントスレカ
レド毛中大兄ノ兄三古人皇子ト云人アリソレヲコヘテ
即位如何アルヘキナレバ先御叔父輕皇子ヲ即位セ
レメタヽハヽ神妙ナルヘシト鎌足申ケレバ中大兄尤
ナリト同心シテスナハチ帝位ヲ輕皇子ニ讓ル是モ
古人ヘ讓ル古人ハ入鹿ト昵シキニヨリテ彼滅亡ヲ
悼テ位ヲ辭シテ僧トナルコレニヨリテ輕皇子位ニツク
孝德天皇是ナリ中大兄ハ後ニ天智天皇ト申ス鎌
足ハ藤原氏ノ元祖大織冠是ナリ此末所々ニテ申
スベシ帝王存生ノ内ニ位ヲ讓ルコトハ皇極ヲ始トス

孝德天皇　皇極ノ弟ナリ。入鹿誅セラレテ後御姉皇
極ノ讓ヲ受テ即位。此時大伴長德大上健部金勒ヲ
帶テ御前ノ左右ニ立ツ。百官列拜ス。皇極ニ尊号ヲ
奉テ皇祖母尊ト云フ。中大兄ヲ以テ太子トス。阿倍倉梯
麻呂ヲ左大臣トシ蘇我倉山田麻呂（石川ト号ス）ヲ右大臣トス。此
左右大臣ノ始ナリ。鎌足ニ錦冠ヲ賜リ内大臣ト云
フ官ヲ授テ食祿ヲ加增シ。百官ノ上ニ居テ天下ノ政
ヲ任セラル。入鹿亡テ國家無事ナル。此人ノ功ナリ。其後ニ
又紫冠ヲ賜リ食祿ヲモ加ヘラル。高向玄理ト僧旻ヲ博
士トス。二人共ニ入唐シテ學問シタル者ナリ　始テ年
号ヲ立テ大化元年ト云フ。八省百官ノ名モ皆此時定
ル。冠ヲ十九ツクリ其色ニヨリテ位ノ階ヲ定ム。都ヲ難波
長柄ノ豐碕ニ遷シ。新ニ内裏ヲ造ル。大化二年正月元日
群臣朝拜ノ禮始テ畿内并國々ニ司ヲ置。關所并ニ
驛傳ヲ定メ。山川ヲ分チ。郡ノ大小ヲ限リ。里々ニ長ヲ
スヘテ。民ノ家數人數年貢并ニ土産ノ品々。武具馬
具等ノ事ニテ勅ヘ定ム。家數百アル所ヨリ采女一人
ヅヽ奉ラシム。采女ハ其所ヨリ然ルヘキ女ヲエラヒテ宮
仕セシムルヲ云フ。國々ヘ使者ヲ遣シ。國司ノ善悪ヲ
勘テ是ヲ賞罰ス。又諸國ニ庫ヲ作リテ武具ヲタクハ
ヘ置ク。右大臣蘇我倉山田麻呂勅ヲ承テ群臣ニ
命シテ諫言ヲ獻ゼシム。其外朝廷ノ儀式此時定レル
コト多シ。太子中大兄ノ皇子内臣中臣鎌足ト相議
セラルヘシ。大化五年ニ左大臣阿倍倉梯麻呂薨ス。

同年ニ右大臣蘇我倉山田麻呂カ弟蘇我日向讒言ヲ構ヘ右大臣逆心アルヨシヲ奏ス右大臣ハ討手ヲ遣サル右大臣少モ官軍ニ敵對セズ其妻子ト共ニ自害ス其後右大臣罪ナキ證據アラハルヽニヨリテ日向ヲ筑紫ヘ遠流セラルコレニヨリテ巨勢德ヲ左大臣トシ大伴長德ヲ右大臣トシテ共ニ大紫ト云フ冠ヲ賜ル其明年長門國ヨリ白雉ヲ獻リケレハ是ハメデタキ事ナリト各言上シケレハ天皇ヨロコヒテ内裏ヘ百官ヲツメ給ヒシヲ見セシム其儀式元日朝賀ノゴトシ白雉ヲ輿ニノセ四人ノ臣ヲシテコレヲ庭ヨリ殿上ヘ舁ケシム左右大臣コレヲ請取テ御前ニ置ク即年号ヲ改テ白雉ト云フ長門ノ國司ニ位ヲ授ケ天下ヘ大赦ヲ行ル

白雉二年始テ繡佛ヲ作ル其長一丈六尺其外千佛像ヲ刻ム又内裏ヘ一千百餘人ノ僧尼ヲ聚メ一切經ヲ讀シメ二千七百餘ノ燈ヲ燃ス

白雉四年三吉士長丹等ヲ勅使トシテ遣唐船ヲ發セラル唐ノ高宗皇帝ニ見ヘテ歸朝セリ此勅使ニ從テ和州多武峯ノ開山定惠モ其外名アル僧多ク入唐ス定惠ハ鎌足ノ子ナリ此代ニ新羅高麗百濟毎年貢物ヲ奉ル其數少ケレハ是ヲ改テ責ハタル或時新羅ノ使者唐人ノ裝束ヲ著テ筑紫ニテ來リケルヲ聞シメシテ日本ノ風俗ニ異キリ怒テコレヲ追歸サル巨勢大臣コレヲ伐ントヽ奏聞シケレトモ

其義ニ及ハズ　天皇在位大化五年白雉五年合テ十年ニシテ崩ス

三十八代

齊明天皇女帝　皇極ノ別號ナリ孝德崩シテ皇極再ビ帝位ニ復ス齊明天皇ト申ス是重祚ノ初ナリ一度位ヲ去テ重テ即位スルヲ重祚ト云フ太子中大兄ノハカラヒニテ難波ヨリ大和ノ飛鳥ノ板蓋宮ヘ都ヲ遷スコヽヨリサキ難波鼠多ク連テ大和ノ方ヘ向ヒケルカ遷都ノ兆ナリトノ其後飛鳥ノ岡本ノ宮ヘ遷タ一ニ内臣中臣鎌足政ヲ行フ四年ノ冬天皇太子ト紀伊國ノ温湯ニ行幸ス蘇我赤兄都ノ留守タリシカ孝德ノ子有馬皇子ニカタリテ天皇政ヨロシカラスト云ヒケレハ皇子喜テ謀叛ノ志アルコトヲ密談ス赤兄イツハリテ許諾シスナハチ皇子ノ宅ヲ攻テ皇子ヲ捕テ紀州ヘ遣ス太子直ニ是ヲ尋問テ其逆謀分明ナリケレハ有間皇子ヲ藤代坂ニテクヒリコロス時ニ十九歳其同類或ハ殺サレ或ハ流罪セラル或ハ有間皇子紀州岩代ノ松ノ枝ヲ結ヒ歌ヲヨミテ頸ヲクヒリテ死ストモ云リ同年阿部比羅夫ヲ大將トシテ肅慎ノ國ヲ討テ生タル羆二ツ并ニ羆皮七十枚ヲ得タリ肅慎國ハ北方ノ國ニテ韃靼ノ内ナリ比羅夫又船軍ヲ率テ蝦夷ヲ平ケテ飯ル蝦夷ハ日本武尊東征以後王化ニ從フコトモアリ又叛クコトモアリ此度比羅夫太勝利ヲ得テ政所ヲ置テ歸ル

五年遣唐使ヲ發ス勅使坂合石布津守吉祥ニ蝦夷
人ヲ添テツカハサル太唐ノ高宗皇帝ニ見ユル時先日
本ノ天皇恙ナシヤト問次執事等モ無事ナリヤ國中
モ平ナリヤト問テ其後蝦夷ノ事ヲ問ル蝦夷人モ弓
矢并鹿皮ヲ唐帝ニ奉ル
六年九月百濟國ヨリ使者來テ言上シケルハ去ル七
月ニ新羅兵大唐ノ軍ヲカタラヒ來テ百濟國ヲ打
破リ君臣皆生捕ラル百濟ノ大將福信ト云フモノウ
ツカニ殘レル兵ヲ以テ新羅ノ兵ヲ退タリ願クハ日
本ニ人質トナリテアルトコロノ百濟皇子豊璋ヲ迎ヘ
トリテ百濟ノ王トアフキ日本ノ加勢ヲ乞テ國ヲ再
興セントト請フ天皇許容シ豊璋ヲ百濟王トシタマフ則
兵船ヲ作リ武具ヲ調ヘ先難波ニテ行幸太子中大兄
攝政シ諸國ノ軍ヲ召アツメタマフ備中國下ノ郡ノ一鄕
ヨリ人數二萬ヲ出シケレバ其郡ヲ号シテ二萬鄕ト云
明年ノ春御船進發シ伊豫ニ泊リ土佐ノ朝倉ニ到ル
此所ニ社アリ其神不ヲ切テ假ノ内裏ヲ造ル神ノタヽ
リニヤ御殿タチ一チクツレテ死スル者多シ　同年ノ
七月ニ天皇朝倉ノ宮ニテ崩御シ給ヒス　在位初度
三年半重祚七年合テ十年ナリ皇極ト齊明トニ人ニ
テ一シ一セトモ後世ニ二ツノ謚ヲタテ前後ノ御治世
ヲ分ツナルヘシ

王代一覽卷之一終